


Kコース <白糸地区>

昔話の里を歩くコース

— みどころ —

芝川に沿う山間の里には、「鬼のいない村」や「おめん淵」などの昔話が残されている。語り伝えられてきた昔話の舞台を歩く。

みどころポイント 石造物  昔話




富士宮市役所
白糸出張所
原1113

スタート



ゴール

距離: 約5km 所要時間: 約2時間

- マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ  駐車場  寺院  神社 
石造物  ルート —

— コースのみどころ —

①神代杉資料館

市内佐折地区で発掘された樹齢約600年の神代杉を展示している。

②横手沢分流ゲート

芝川が増水した際、下流域の農地被害を防ぐため、分流ゲートで分水し大倉川農地防災ダムに増水した水を流す。

また、ゲート上流には芝川を水源とする北山用水・万野用水の取入れ口がある。

③鬼のいない村

この辺りは昔話「鬼のいない村」の舞台である。「鬼橋」は鬼が鉄砲で撃たれた場所であり、「足形」は撃たれた鬼の足跡がついた場所であるという。この足形とは、水の作用により小石が川底の岩をえぐって作ったくぼみ(ポットホール)である。

④内野北谷戸の道祖神

明和8年(1771)造立の双体道祖神で、隣に石祠がある。白糸地区では隣に石祠を伴う道祖神が多く見られる。

⑤内野の発電所

芝川の水を利用した水力発電所で、大正7年(1918)に発電を開始し、現在も稼働している。芝川水系には他にも足形や猪之頭などに水力発電所があり、現在も稼働している。

⑥内野神社

地域の5つの神社を合祀して昭和46年(1971)に創建された。境内の灯籠や幟杭に旧神社名を知ることができる。また、この地域の内野集落と足形集落には市指定無形民俗文化財「火伏念仏」が伝承されている。

⑦佐折の石幢

不動橋西側に、高さ187cmの石幢や双体道祖神などがある。石幢とは、六角柱や八角柱の幢身(胴体)に経文や仏像を刻んだ石塔である。少し離れた北西の辻には、江戸時代に造られた甲子や馬頭観音が並んでいる。

⑧上半野の道祖神

天明2年(1782)の造立で、仲良く腕を組んでいる双体道祖神である。

⑨文殊堂

地域では「文殊堂」と呼ばれ、文殊菩薩が祀られている。堂の前には19世紀に造立された石灯籠がある。毎年8月19日に行われる祭りでは近年手筒花火が奉納されている。

富士宮の昔話「鬼のいない村」

昔、富士山の麓に鬼が住んでおり、白糸の滝辺りの村々に出てきては悪さをしていました。ある日、次兵衛さんという猟師が夜遅く村に帰って来ると、村の入口の橋の所に鬼が立っていました。次兵衛さんが夢中で鉄砲の引き金を引くと、弾は鬼のお腹に当たりました。次兵衛さんは恐ろしくなって家に逃げ帰りました。一方、鬼は住处に帰る途中お寺によって、和尚を起こして薬をもらうことにしました。和尚は薬だといって火薬を鬼に渡し、傷口に詰めて温めるように教えて、火打ち石も持たせました。住处へ帰った鬼が和尚に教えられた通りにしたところ、鬼は爆発してばらばらになってしまいました。

それから後、この地域では鬼がいないので節分に豆まきをしなくてもいいということになりました。